



「外為短期投資家動向調査」結果

<第16回調査>

2010年9月30日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的に実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の国政選挙など、市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2010年9月22日(水) 13:00～2010年9月29日(水) 13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。
今回の有効回答数は、561件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

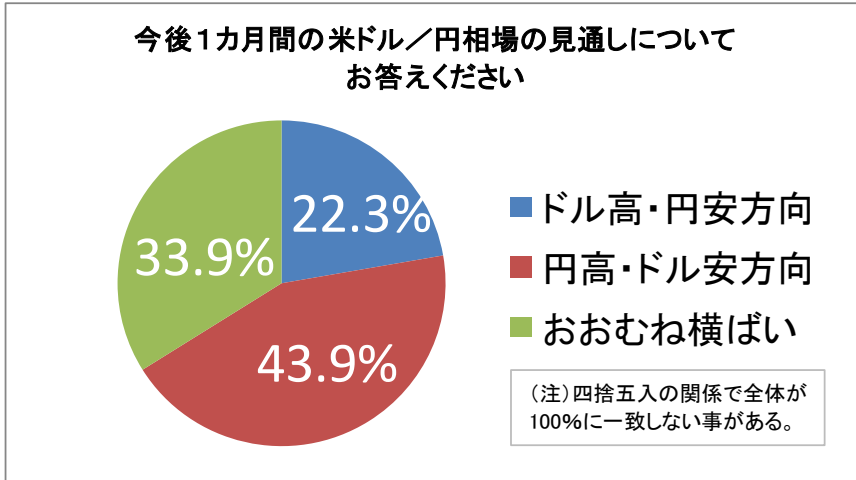
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第16回調査結果略報：ドル円予想DIは引き続き円高方向に】

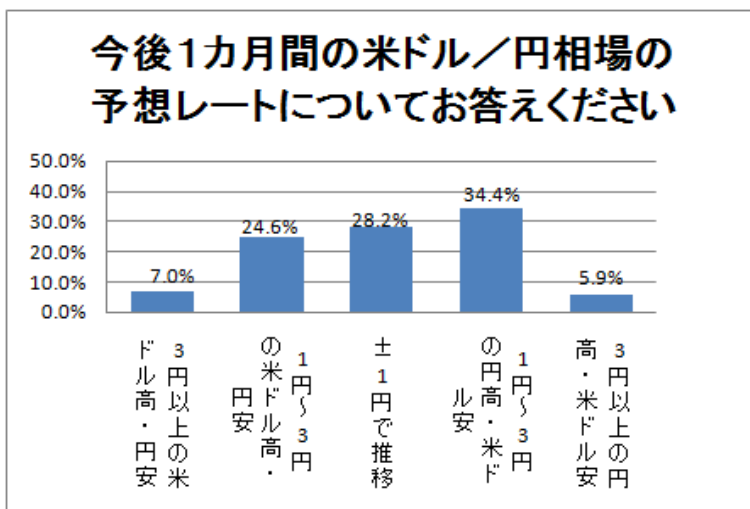
問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

今後1カ月間のドル円相場見通しについては、「ドル高・円安方向」と答えた割合が22.3%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が43.9%となった。この結果、「ドル円予想DI」は▲21.6%ポイントとなり、前回の▲22.5%ポイントと同じく円高方向でほぼ横ばいとなった。調査期間中のドル/円相場が、米国の追加金融緩和観測を背景に85円台から83円台へ下落となった事もあり、6年半ぶりに実施された本邦当局の円売り介入をもってしても円高トレンドの転換には至らないと見るFX投資家が多数を占めたようだ。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

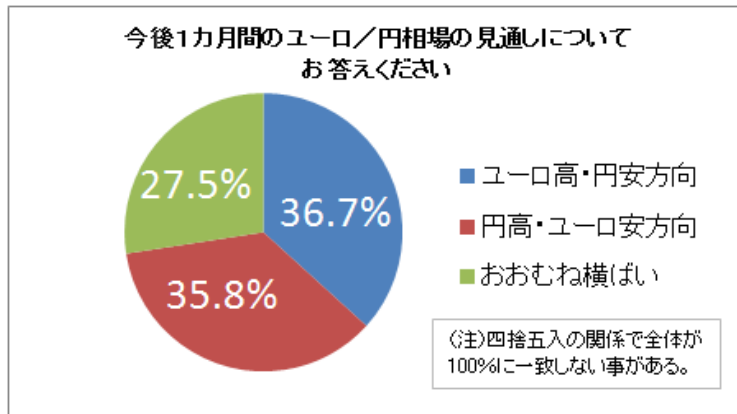
今後1カ月間のドル円相場の予想レートについては、「1円～3円程度の円高・ドル安」が34.4%と最も多く、次いで「±1円」が28.2%、「1円～3円程度のドル高・円安」が24.6%、「3円以上のドル高・円安」が7.0%、「3円以上の円高・ドル安」が5.9%の順番になった。 Histogramの形状は、やや円高側に傾いているとも言えるが、横ばいから円安を見込む向きもそれなりに見られる。極端な円高や円安を予想する向きは少数であることから、FX投資家層は今後1ヶ月については比較的穏やかな値動きを予想しているようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

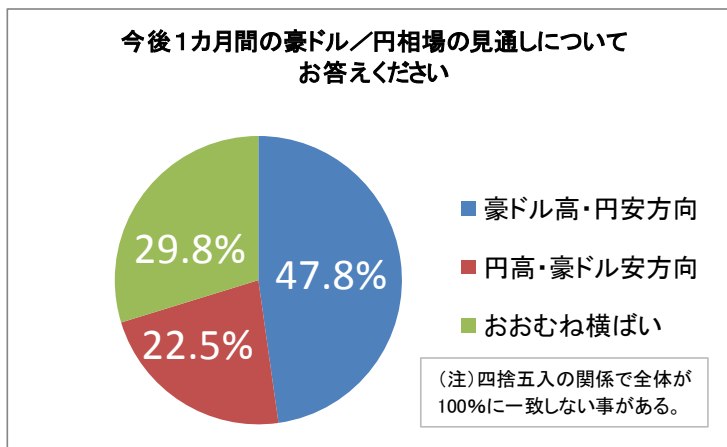
問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

今後1カ月間のユーロ円相場見通しについては、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が36.7%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が35.8%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は+0.9%ポイントと小幅ながらプラスとなり、前回調査の▲23.5%ポイントから円安方向に転換した。今回の調査期間のユーロ円相場はユーロ/ドル市場でのユーロ高(ドル安)進行の影響から112円台～114円台で堅調に推移しており、前回調査期間内に付けた年初来安値105.42円から大きく上昇している。今回のユーロ円予想DIの円安転換は、機動的に相場見直しを入れ替えるというFX投資家層の特性を改めて浮き彫りした格好だ。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

今後1カ月間の豪ドル円相場見通しについては、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が47.8%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が22.5%となった。この結果、「豪ドル円予想DI」は+25.3%ポイントとなり、前回、統計開始以来初めて記録した豪ドル安・円高方向から再び豪ドル高・円安方向に転換した。調査期間中の豪ドル円相場は概ね80円～81円台で堅調に推移している。豪州で発表された経済指標の強い結果や同国中銀首脳の強気なコメントを背景に、利上げ再開観測が高まっており、FX投資家層のセンチメントも豪ドル強気に傾いたようだ。ただ、DI自体は過去最高を記録した2010年6月調査の+43.2%ポイントを大幅に下回っており、豪ドル強気一辺倒というわけでもなさそうだ。

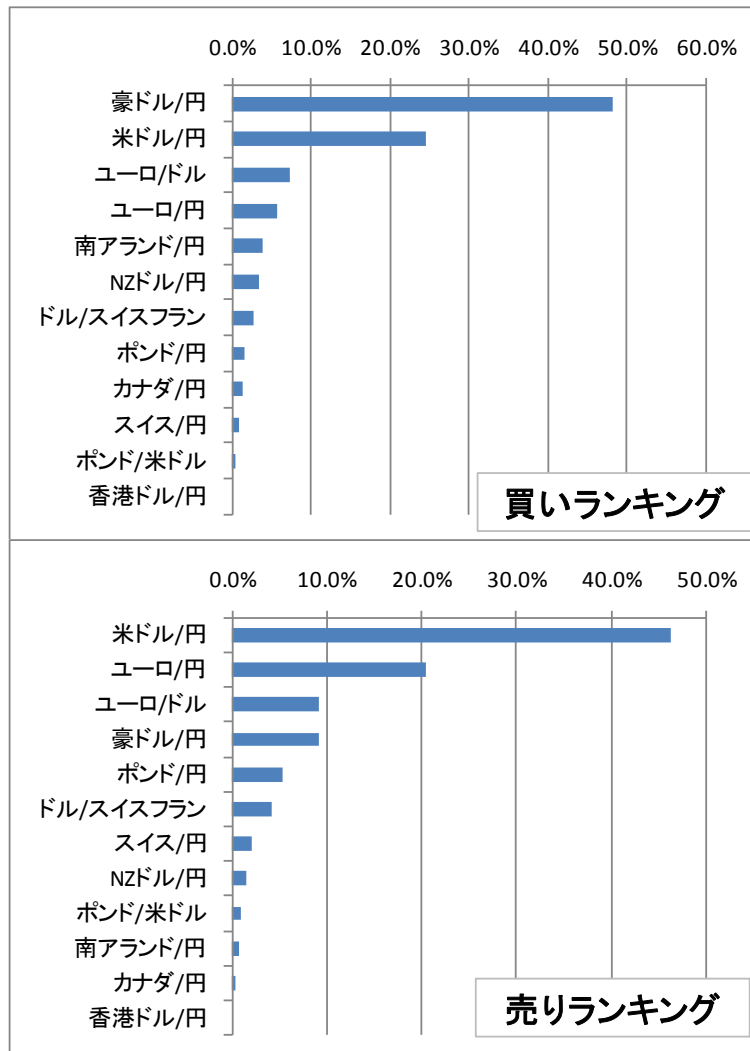


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

今後注目している通貨ペアについて尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(48.1%)、2位米ドル円(24.6%)、3位ユーロドル(7.3%)、4位ユーロ円(5.7%)、5位は南アランド円(3.9%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル円(46.3%)、2位ユーロ円(20.5%)、3位ユーロドル(9.1%)、4位豪ドル円(9.1%)、5位ポンド円(5.3%)と前回と同じ順位になった。「買い」で注目の通貨ペアでは、豪ドル円が7ヶ月連続で1位の座をキープしている。回答割合も前回の36.5%から48.1%に増加し、2位米ドルとの差を前回の4.7%ポイントから23.5%ポイントに拡大している。一方、「売り」で注目の通貨ペアでは前回に続きドル円がトップの座をキープした。その回答割合は前回の43.4%から46.3%へと増加しており、問1の回答結果でドル円予想DIが▲21.6%ポイントと、FX投資家層ではドル弱気派が多数派を占めた事と整合的な結果と言える。

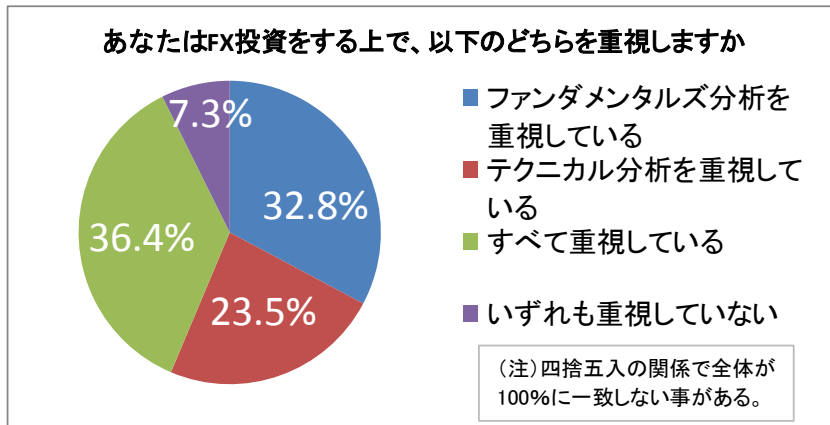


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

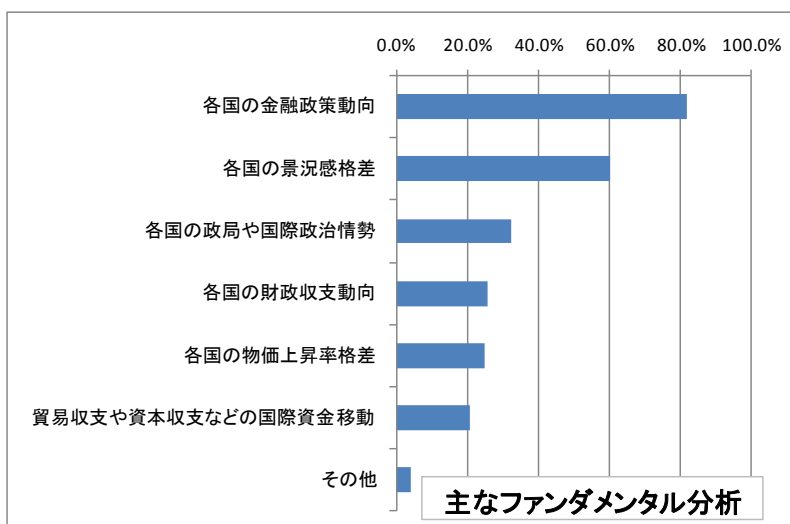
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が32.8%であったのに対し、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が23.5%と、ファンダメンタルズ重視派がやや上回った。前回調査ではテクニカル重視派が上回っていたが、今回調査では再逆転している。もっとも「すべて重視している」と答えた割合が36.4%と最大の回答割合となっており、ファンダメンタルズ・テクニカルの両面から投資戦略を組み立てるFX投資家が増加しているようだ。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

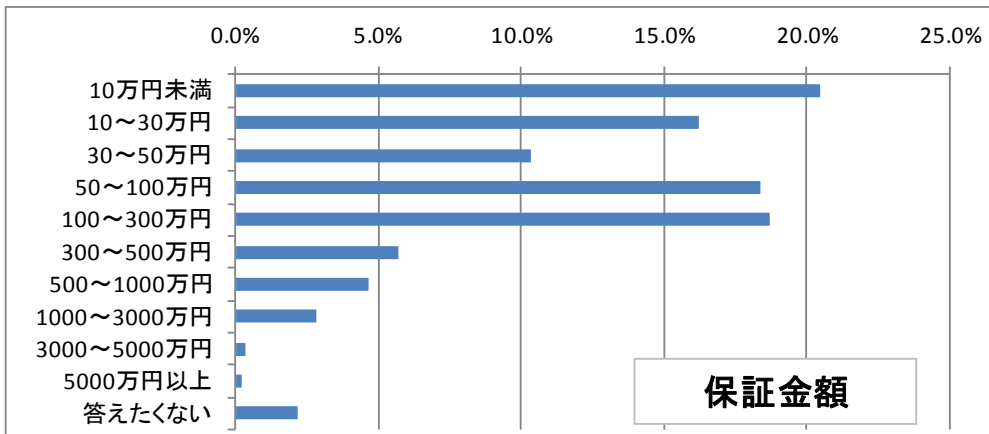
「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場動向要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(81.8%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(60.1%)」、「各国の政局や国際政治情勢(32.2%)」、「各国の財政収支動向(25.6%)」、「各国の物価上昇率格差(24.7%)」の順に続いた。調査期間中には、日本や米国では追加金融緩和観測が強まる一方で、豪州では利上げ再開観測が浮上するなど、金融政策の対比で為替相場が動く場面も多く見られた。こうした中、8割以上のFX投資家が、ファンダメンタルズの中でも「各国の金融政策動向」に最も注目している事が示された。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

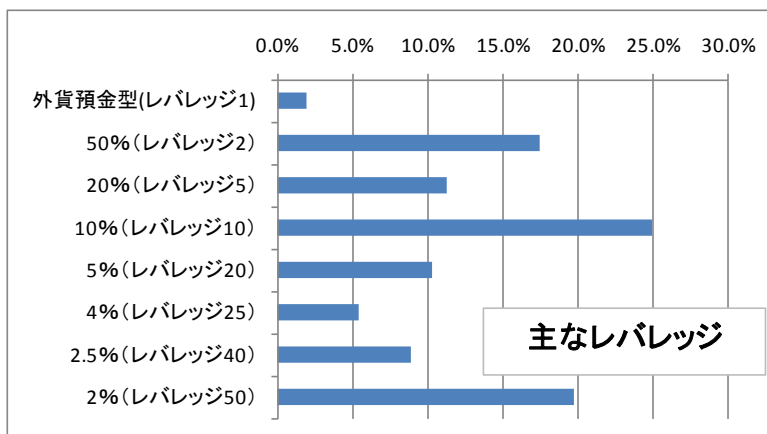
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、10万円未満と答えた割合(20.5%)が最も多かった。以下、100~300万円が18.7%、50~100万円が18.4%、10~30万円が16.2%、30~50万円が10.3%、300~500万円が5.7%となっている。引き続き50万円以下の保証金で取引するFX投資家が半数近くを占めており、小額の保証金で取引出来るというFXの特性を良く表していると言える。ただ、100万円以上と答えた合算割合が前回調査の21.5%から32.4%に増加しており、一部のFX投資家はレバレッジ規制に対応して、取引量を減らさずに保証金を増額した可能性も感じられる結果となった。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)について尋ねたところ、「10%(レバレッジ10)」と答えた割合が25%と最も多く、「2%(レバレッジ50)」が19.8%で2番目に、「50%(レバレッジ2)」が17.5%で3番目に多かった。これに次ぐ4位が「20%(レバレッジ5)」で11.2%となった。これは前回と同じ順位であり、回答割合もほぼ同じであった。今年8月1日にいわゆるレバレッジ規制が実施され、50倍を超えるレバレッジでの取引が不可能になった事で、選択肢が減少した事は事実だが、FX投資家層はレバレッジ選択という意味においては、自身の投資スタイルを確立しつつあるようだ。

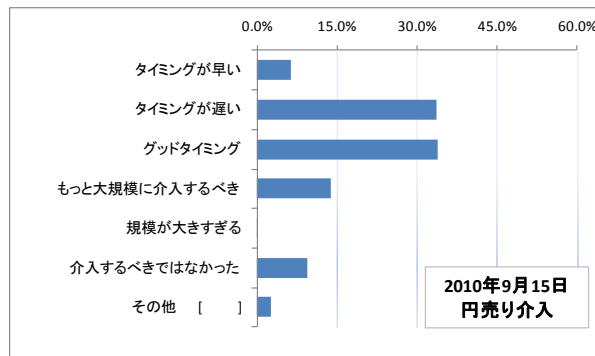


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

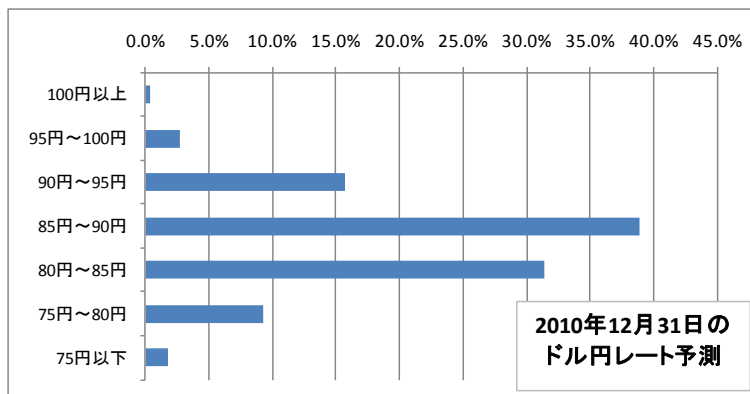
問10: 9月15日に政府・日銀は6年半ぶりに為替介入を実施しましたが、今回の介入に対するあなたの評価のうち最も当てはまるものをお答えください。(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として、9月15日に行われた本邦当局の円売り介入に対する評価について尋ねたところ、「グッドタイミング」(33.9%)と答えた割合が最も多く、「タイミングが遅い」(33.7%)が僅差の2位。「もっと大規模に介入すべき」(13.7%)が続き、「介入するべきではなかった」も9.4%の回答割合を得た。また、それ以外の評価については「その他」の欄に自由記述してもらったところ、「協調介入するべきであった」、「民主党のパフォーマンスに過ぎず効果は疑問」、「継続して介入するべき」、「結果はまだ出ていないので何とも言えない」といった回答が目立った。



問11: 今年12月31日ニューヨーク・クローズ時点のドル円の予想レートをお答えください。(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として、年末(12/31NYクローズ時点)のドル円相場水準を予想してもらったところ、85~90円が38.9%と最も多く、次いで80~85円が31.4%、90~95円が15.7%、75~80円が9.3%、95円~100円が2.7%、75円以下が1.8%、100円以上が0.4%の順となった。85円以上を予想した合算割合が半数を超えて57.7%となっており、やや意外感のある結果となった。調査期間中のドル円相場は83~85円で推移しており、年末時点のドル円相場は調査時点に比べ円安・ドル高へのシフトを見込んでいるFX投資家が多数を占めていることになる。問1で尋ねた今後1ヶ月のドル円相場の見通しが円高方向であった事とは違った結果となった。FX投資家層のドル円の相場観としては、目先は下落する可能性が高いものの、そこからは反発するとの見方をしていると推測される。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第16回目となりました。前月との対比での時系列比較は徐々に可能になり始めていますが、まだ開始後1年程度ということもあり、前年同期との比較に十分な調査結果の蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間の時系列比較を十分に提示することはまだできませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
2010年	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月									
	11月									
	12月									
	1月									
	2月									
3月										

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com